

「高松市誕生120周年（大還暦は青でお祝い）」

新年明けましておめでとうございます。

今年2010年（平成22年は）は、我が高松市が1890年（明治23年）2月15日に全国40番目の市として産声を上げてから、ちょうど120周年の記念の年です。今年の干支は、^{えと}庚寅^{かのえとら}ですから、120年前も同じく庚寅。高松市は、^{とらどし}寅年生まれであります。誕生時の高松市の区域は、ほぼ当時、香川郡「高松」と呼ばれていた地域で、面積は、わずか2.85平方キロメートル、人口は3万3863人でした。

明治政府による市制・町村制の施行は、1889年4月1日ですが、実際は、各県における合併の状況などを見て順次実施に移されており、香川県における高松市の市制と5町176村の町村制の施行は、10か月半遅れることとなります。これは、直前まで香川県は愛媛県に併合されていて、分県独立したのが、1888年12月であり、県の指導体制が十分に整わず、町村合併が遅れたことが主な原因のようです。

それから120年。その歩みを一言で概括することはできませんが、昭和の時代までに隣接町村との6回の合併を経て、平成11年4月からは、県から保健所などの行政サービスの権限を譲り受け、中核市となりました。そして、平成17年度に近隣6町と合併し、人口42万人を擁する四国の、また、環瀬戸内海圏における中枢都市の一つとして、着実に発展をしてきています。

そんな高松市が二度目の還暦、言わば大還暦を迎える今年、それをお祝いするかのように、2つの大きな国際的イベントが高松市を中心に開催されます。「第2回高松国際ピアノコンクール」と「瀬戸内国際芸術祭2010」です。併せて、宇高航路100周年を記念した船のイベントも企画されています。これらのイベント、いずれもシンボルカラーは、青色です。還暦には、振り出し（赤子）に戻る意味で赤いちゃんちゃんこを贈ってお祝いする風習がありますが、本市の大還暦は、さわやかな海と空をイメージさせる青を基調に出してお祝いしたいと思います。